

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番73	福山市立山南小学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月16日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・至誠中学校区 3校で義務教育修了段階の子どもの姿を共有し、教育活動の充実を図る。 ・一人ひとりの個性を尊重し、多様性社会の担い手の育成に向けた取組を推進する。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着や学習習慣の確立及び基礎体力に課題がある。 ・積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。 ・自分で考えて行動することが苦手である。
--	--

育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)	主体的に学び合う力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	課題を発見し、自分で考え、協働して解決することができる子ども
中学校区として統一した取組等	○授業づくり 単元で『身につけるスキル』を明確にした授業を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

III 自校

ミッション
どんな社会の変化も肯定的にとらえ、他者と協働しながら未来社会で生きる子どもを育成する学校

学校教育目標
夢をもち 社会で活躍できる児童の育成

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考える(考え合う)ことがおもしろい」の肯定的評価は、84% ・「標準学力テストで正答率が40%未満の児童」は、国語7.9%、算数14.9% ・自分達で計画・実践する学習活動や学校行事等を実施している。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の実践をリフレクションにまとめ、授業づくりについて対話を行っている。また、リフレクションの視点を児童に示し、学びをふり返られるようにしている。 ・授業づくりの視点を具体的に示し、授業実践をしていくことに課題がある。

育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)	めざす子ども像			
	1 自分から進んで取組む力(主体性)	2 友達と協力する力(協働性)	3 目標に向かってやり遂げる力(やりきる力)	4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)
1・2年	自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習する。 自力解決や協働解決の素地が育っている 理由をつけて自己の考えを表現できる	自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明し合う。	自分でやると決めたことを最後までやり遂げる。	相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。
3・4年	多様な主体的・協働的な活動ができる 自己の考えを活動に伴って検証できる リフレクション	グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出す。	グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組む。	目標に向かって諦めずに挑戦する。協力して活動する。
5・6年	自己決定を含む主体的・協働的な活動ができる リフレクションを通して自己の考えを発展できる	グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表する。	友達の良いところやアドバイスを生かして、より良い考えや作品を作る。	自分で目標を立て、目標達成に向けて主体的に行動している。

研究	テーマ	自分の考えをもち、他者と協働しながら解決しようとする児童の育成
	内容等	主体的に問いを立てる・児童が自らの課題を見つける人とのかかわりあいの中で、自分の思いや考えを持つ・他者と協働しながら解決していく ○目標やめあてを決め、ふりかえる場がある。 ○協働し解決する場がある。 ○目標に向かってやりとげる場・機会がある。 ○みんなのことを考えみんなのために働く場がある。
めざす授業の姿		

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	□セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□セ 評価	達成 評価	総合 評価
2	学びに向かい、 学び続ける児童 の育成	★	継続	児童の実態をも とにした指導方 法を工夫し、学 力の向上を図 る。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業で、自分の考えをもち、言葉や数に着目した協動的な学びにする。 児童の実態を把握し、個に応じた指導を工夫する。 教材研究日を設定し、全員で教材研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数の単元末テストで40%未満の児童を10%以下にする。 児童アンケート「自分の考えをもって学ぶことができた」「自分の考えを深めることができた」の2項目で肯定的評価80%以上にする。 								
				一部 変更	振り返りにより 学びを価値付 け、主体的に粘 り強く学習に取り 組む。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の中に振り返りをする時間を確保する。 どのようにして課題解決をしたのかを振り返り、次の学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年5回の授業研究での児童の振り返りを協議会で交流する。 次につながる振り返りを書くことができる児童70%以上にする。(教職員アンケート) 							
2	自他と学校、地 域を大切にする 児童の育成	継続	継続	児童主体の学習 活動や学校行事 等を推進し、児 童の自己肯定感 や郷土愛を育成 する。	<ul style="list-style-type: none"> 山南スポーツフェスティバルや山南フェスティバルなど、行事への取組過程や終了後等に互いの努力を認め合える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの自己肯定感・有用感に関する「自分によいところがある」「人の役に立ててうれしい」の2項目で肯定的評価を80%以上にする。 								
					生活科や総合的な学習 の時間等で地域の人 もの、ことを積極的 に活用し、地域のよさに 触れる機会や場を設定 する。	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の人や課題などに児童が直接触れる機会を持っている」「山南が好きである」の2項目で肯定的評価85%以上にする。 								
					自己の体力や生活 についての課題 を知り、より よい自分を目指 して取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 体力・生活について自己目標を設定して取り組み、自己評価する。 体育科での基礎体力向上の取組や外遊びを推進し、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活振り返り週間で運動と就寝時刻の2項目において、児童の肯定的評価80%以上にする。 質問紙での「運動することは好き」や「体育の授業は楽しい」と答えた児童の肯定的評価を90%以上にする。 							
2	意欲、やりがい を発揮できる教 育環境の整備	継続	継続	働き方改革を進 め、教材研究や 児童と向き合う 時間を確保す る。	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや自分が挑戦しようとしていることを気兼ねなく発言できる風通しの良い職員室づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりなど学校内の活動について、失敗を恐れずに挑戦することができている。」教職員の肯定的評価を80%以上にする。 								